

日米欧「前衛美術の痕跡展」



▲山内 重太郎 氏



▲尾花 成春 氏

戦後、反芸術を掲げる前衛美術が野火のように広がりました。それを検証する「痕跡―戦後美術における身体と思考」展が、日米欧の代表作家50人の作品を京都国立近代美術館（11月9日～12月19日）と、東京国立近代美術館（新年1月12日～2月27日）に会して開かれます。

東京・京都国立近代美術館で開催 久我記念美術館を育てた 山内・尾花氏作品も 今年末、半世紀ぶりに

これに、かつての福岡の前衛美術集団・九州派に属した山内重太郎さん（75）、尾花成春さん（78）の作品が選ばれました。お二人とも久我記念美術館で個展を開き、同美術館の運営にも積極的にかかわって関係浅からぬものがあります。

九州派（1957～65）は、ほぼ同時期に結成された有名な前衛美術集団、東京のネオ・ダダ、ものの派、関西の具体美術協会（メンバーの作品も痕跡展に出品）と軌を一にしており、その気概たるや「人のやらないことをやれ」とばかりに、絵具を詰めた瓶を投げつけて描くなど、破天荒な「土着」の反芸術活動を展開しました。

今回出品される山内作品もあり。それまで誰ひとり考えもしなかったアスファルトを素材に使い、ベニヤ板（117×91）の上にぶちまけ、人造絹糸のクズ糸と顔料をまぜて塗り、表面にガソリンをかけて燃やしたものです。焼けた画面の真ん中に小さな穴が見えます。タイトルは「作品5」。

尾花作品も、アスファルトを素材にした6号の「自画像」とはいっても画面に顔はありません。三池争議の全電通オルグとして現場にはりついていたころの作品です。「激しい時代に生きた自分を刻み込んでおきたかったので自画像としたが、これはまさに私の痕跡。手許に残

久我記念美術館での個展は、97年4～5月に山内さんの「橄欖岩の拓本・焼き物のオブジェ」展。02年6月に尾花さんの「黒の世界」展。そして昨年1月には書芸作家・大塚抱節さん、美術家・岩田恒介さんとの4人展「虚空遍歴」が話題を呼びました。現在、山内さんは同館の運営委員。尾花さんは音楽イベントに九響の女性四重奏を招くなどし、力を入れていただいています。

（あ）

森林木の譚

二十世紀の森づくりシリーズ

82



自然教育林構想基金

須恵第二小学校四年生は学年で、総合学習の時間に、須恵川の観察研究に取り組みま

した。昔の須恵川の記録を調べ、現在の須恵川と比較し、川の役割や水の大切さを学んでいます。



先日「この学習の一環で集められた募金を、植樹などを行なっている自然教育林構想へ寄付したい」という話をいただきました。四年生は学習の中で、川の汚染を少なくするための

廃油を利用したせっけん作りなどをし、節水の大切さを理解し、植樹の募金活動に取り組み、寄付金を集めました。このことを受け9月9日に自然教育林推進協議会吉松輝会長は須恵第二小学校で四年生全員と古賀先生・城戸先生・古田先生から総額2万3109円の寄付を受け取りました。子どもたちは「このお金は四年生だけではなく、学校の人や町の人みんなの気持ちがかもっています。須恵川が昔のようにきれいになるようお願いを込めて、また水を保つてくれる木を植えることに役立ててください」とのメッセージを添えました。この寄付金は今後、須恵町の緑化に用いられることになります。

（自然教育林事務局長）

◆ 珍しい木・想い出の木・不思議な木・植物好き・花好きなど、木にまつわるおもしろい話を教えてください。

▼連絡先 歴史民俗資料館
〒932-6312

楽しい考古学

須恵町最古の遺跡、乙植木山城戸遺跡

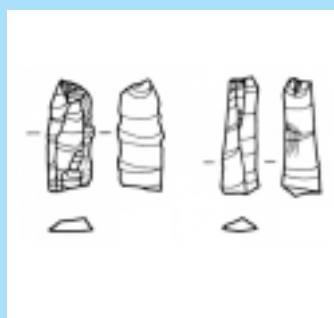
今回紹介する資料は乙植木山城戸遺跡から出土した石器です。この遺跡は乙植木の天満宮がある森の九州道を挟んだ東側に位置しています。現在は工場などが建っていますが、かつては東西にのびる丘陵でした。

この遺跡から562点もの石器が出土しました。遺跡の時期は後期旧石器時代で、今から約1万3～4千年前、この地に人間が住んでいました。

この遺跡から出土した石器の特徴は細石器と呼ばれる長さ約1.5センチ、幅約0.5センチの小さな石器で



遺跡位置図（中央網かけ部分）



乙植木山城戸遺跡出土
細石器（実物大）



同細石核【石器を作った
残りの石】（実物大）

（啓）